

2020 年度県内新入社員の「入社半年後の意識調査」

新入社員の価値観に大きな変化 企業家的精神を持ちスキルアップを目指す新世代

入社の際に新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けた今年の新入社員だが、現状では仕事にやりがいや楽しさを感じており、「厳しい」「つらい」「きつい」といった項目は軒並み減少。これからのキャリアについては、今の会社で「定年まで働きたい」と考える新入社員は3割超で前年とほぼ変わらないが、「転職したい」が半数を下回り、代わりに「独立したい」が1割に増えた。出世についても「平社員のままでいい」が激減、初めて3割を切った。増えたのは「係長」「役員以上」「その他」でいずれも調査を始めた2018年からで最高となった。「その他」には「社長」「独立」「起業家」と書かれており、組織内外を問わない企業家的精神が感じられる。

新入社員が転職を考える理由は「自己の成長のため」だが、それに気づいた企業側が「研修など人材育成の充実」や「やりがいの創出」といった対策を取り始めている様子がみられた。

今年の新入社員の自由記述には会社に求めるものとして「多様」「新しい考え方」「自由」といった言葉が多くみられ、企業がこうした新しい価値観にどう応えていくかが課題になりそう。企業からみた新入社員は、新型コロナウイルスの影響でさまざまな制限がある中でも前向きに誠実に業務に取り組んでいる様子で、コロナに負けないうまさが感じられた。

<調査概要> 新入社員向け「入社半年後の意識調査」(以下新入社員調査)

- 調査期間 : 2020年10月5日～16日
- 調査対象 : あしぎん新入社員フォローセミナー受講生、出張研修受講生
(セミナー開催回数 栃木県5回、出張研修2回)
- 調査方法 : セミナーにてアンケート方式
- 有効回答数 : 135名 (回答率100.0%)

内 訳	男 性	女 性	合 計
有効回答数	67	68	135
回 答 率	49.6%	50.4%	100.0%

新型コロナウイルスの影響でセミナー受講者数が減少したことにより、有効回答数減少
(前年度有効回答数263)

<調査概要> 企業向け「新入社員及び採用に関するアンケート調査」(以下企業調査)

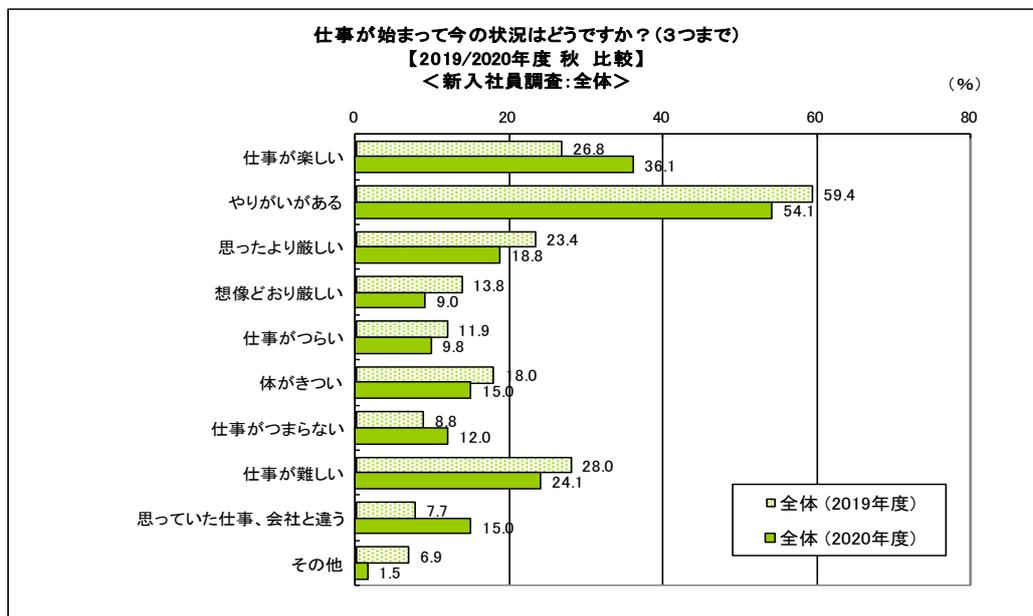
- 調査期間 : 2020年8月下旬～10月上旬
- 調査対象 : 2019年及び2020年あしぎん新入社員セミナー・同フォローセミナー受講企業
- 調査方法 : 郵送によるアンケート方式
- 有効回答数 : 81社 (回答率 37.1%)

内 訳	建 設 業	製 造 業	サービ 業	卸 売・小 売 業	そ の 他	全 体
有効回答数	17	20	18	17	9	81
回 答 率	21.0%	24.7%	22.2%	21.0%	11.1%	100%

※両調査は2018年度より同時期に実施している。

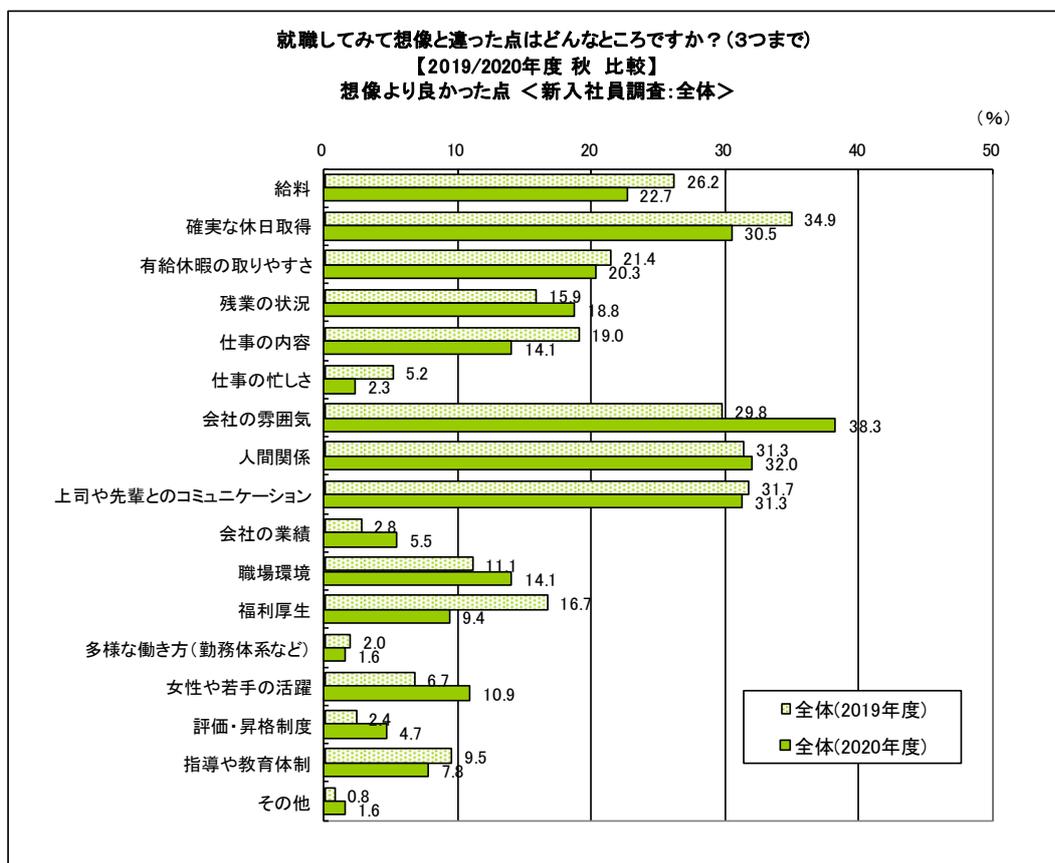
1. 仕事が始まって今の状況はどうか（新入社員調査）

1位は「やりがいがある」（54.1%）で前年に比べやや減少したが半数を超える。前年3位だった「仕事楽しい」（36.1%）が前年比9.3ポイント増で2位となり、「仕事が難しい」（24.1%）が3位となった。「厳しい」「つらい」「きつい」といった項目は軒並み前年より減少しているが、「思っていた仕事、会社と違う」が前年比7.3ポイント増となっている。

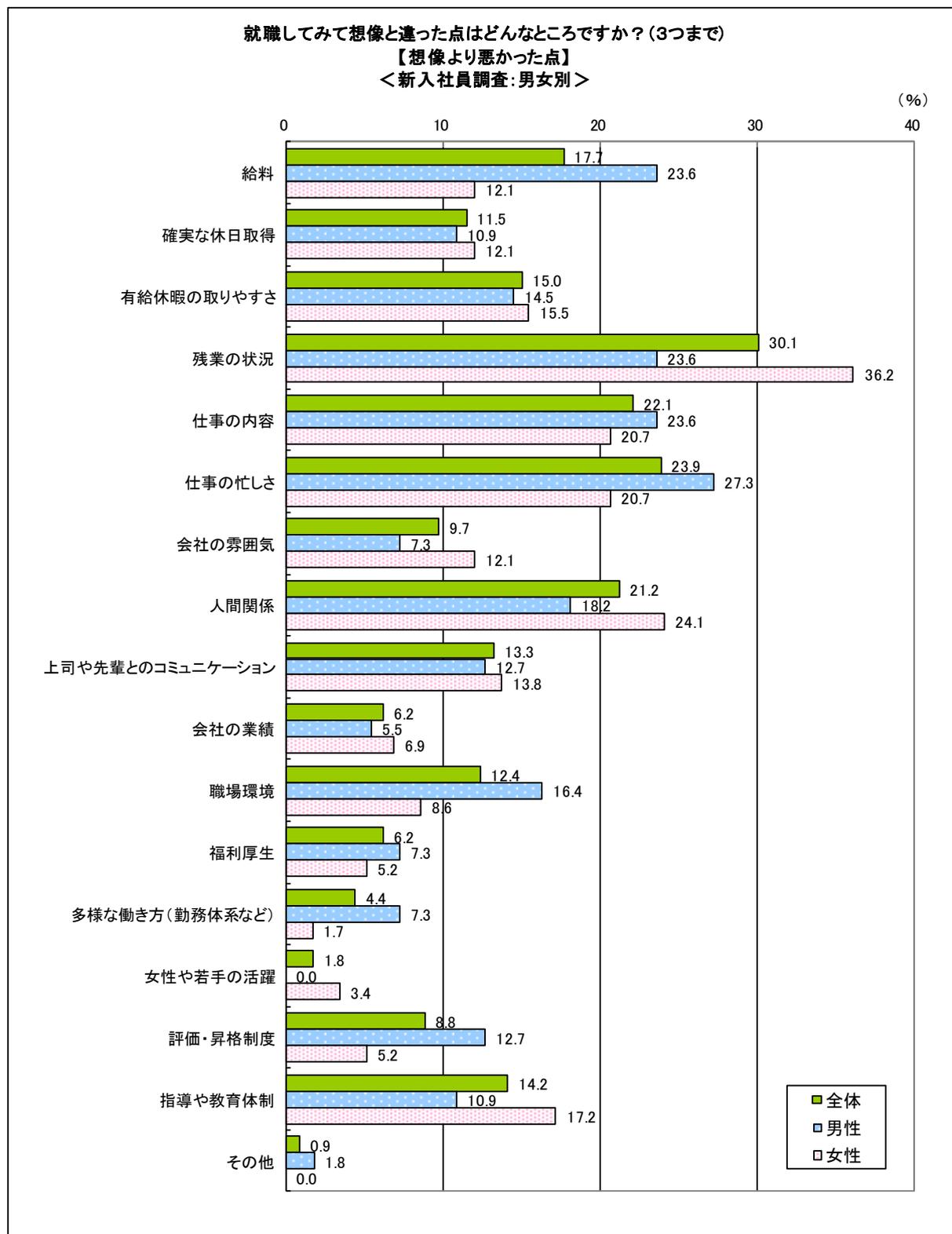


2. 就職してみて想像と違った点（新入社員調査）

＜想像より良かった点＞ 1位は「会社の雰囲気」（38.3%）で前年より印象が良かった様子。次いで「人間関係」（32.0%）、「上司や先輩とのコミュニケーション」（31.3%）の順となった。「人間関係」（男性39.7%・女性24.6%）と「上司や先輩とのコミュニケーション」（男性36.5%・女性26.2%）は男女差が大きく、想像より良かったと答えた男性が多い。



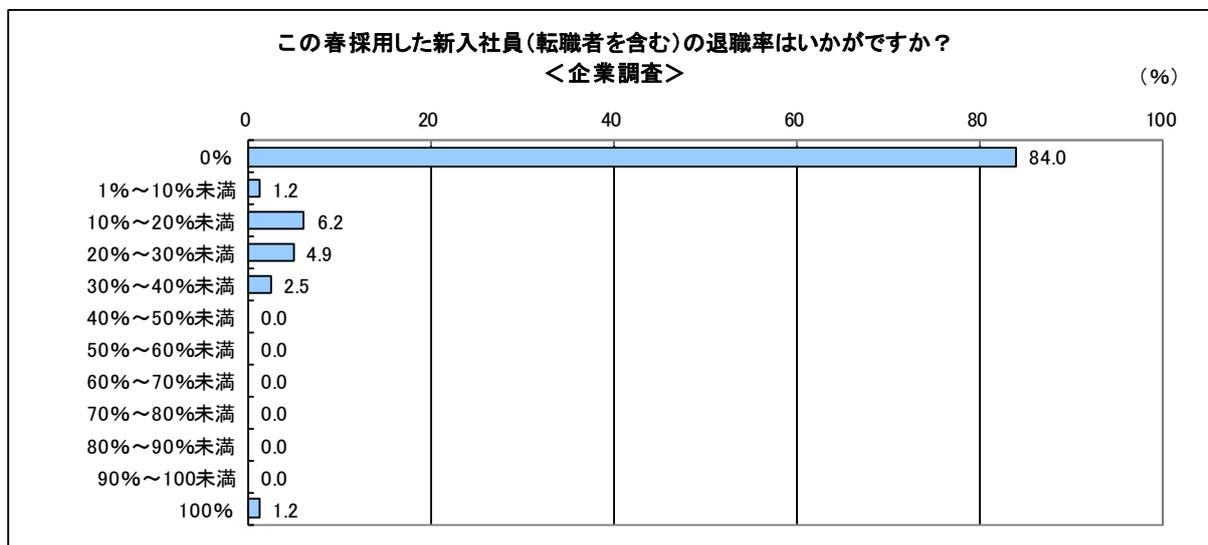
<想像より悪かった点> 全体では、1位は「残業の状況」(30.1%)、次いで「仕事の忙しさ」(23.9%)、「仕事の内容」(22.1%)の順。男女別では、男性は1位が「仕事の忙しさ」(27.3%)。2位は同率で「給料」「残業の状況」「仕事の内容」(23.6%)。女性の1位は「残業の状況」(36.2%)で女性の4割近くが想像より悪かったと回答。2位は「人間関係」(24.1%)、3位は同率で「仕事の内容」「仕事の忙しさ」(20.7%)となった。



3. 転職等について

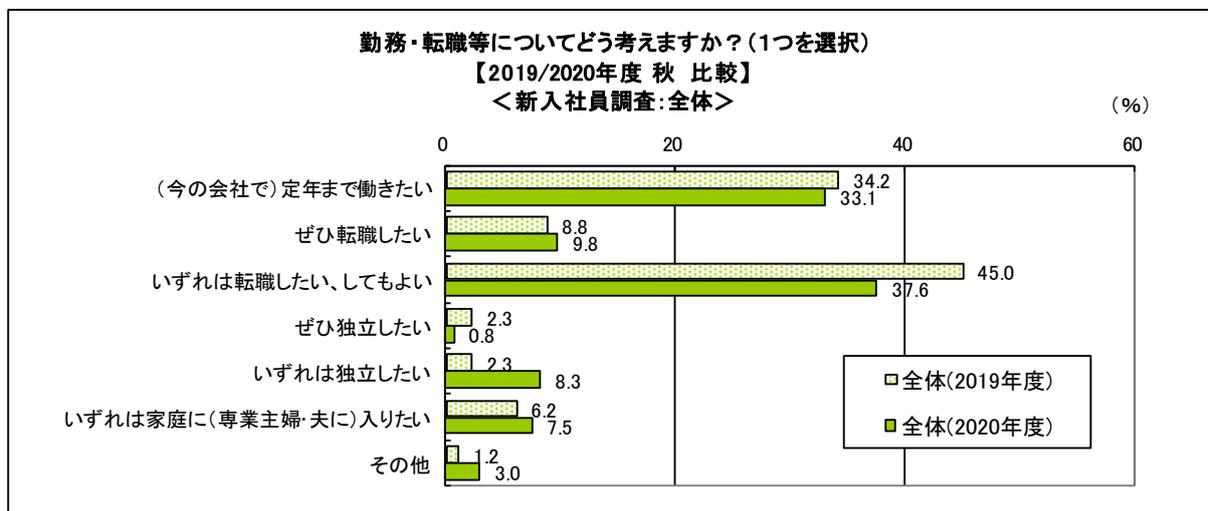
<入社半年までの退職率>（企業調査）

退職率については「0%」が84.0%と、8割を超える企業で退職者なしとなった。「0%（退職者なし）」は2018年82.6%、2019年79.6%と低下傾向にあったが、2020年は84.0%で、過去3年間で最も高い割合となり、わずかだが退職率が改善している。



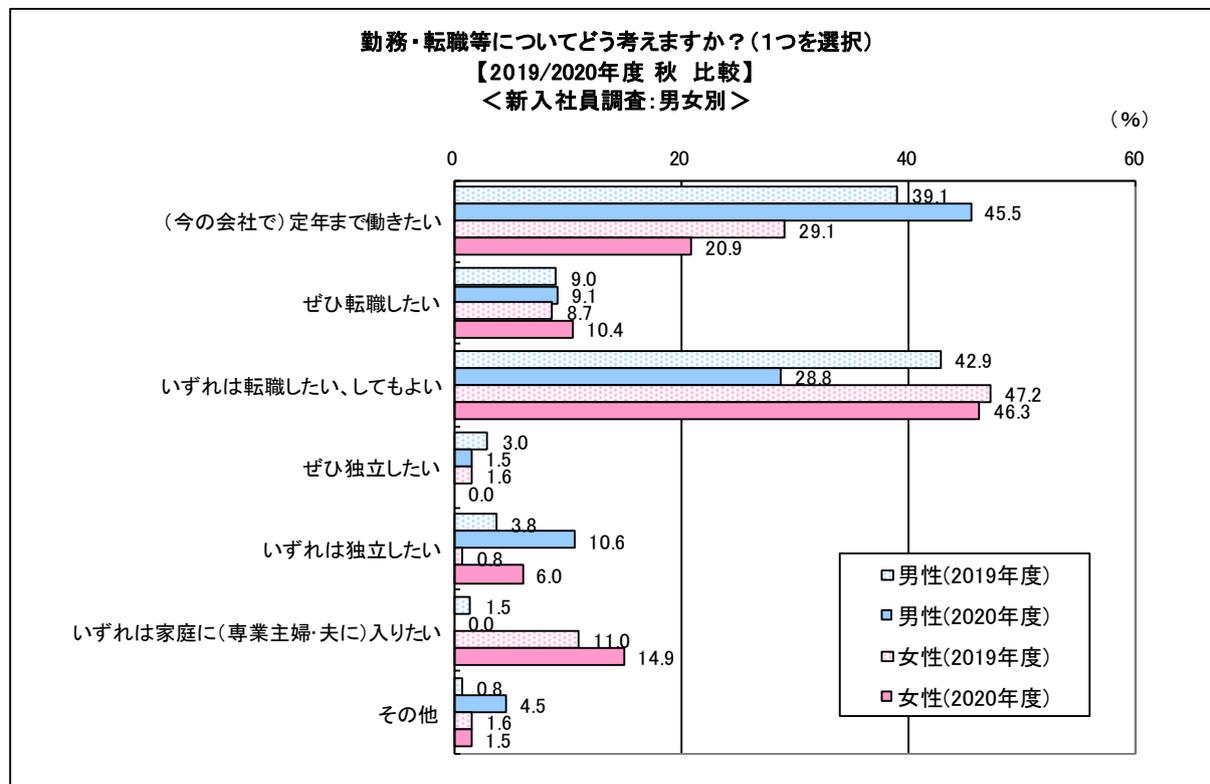
<今後の転職等について>（新入社員調査）

【全体】新入社員に対して今後の転職等について尋ねたところ、今の会社で「定年まで働きたい」は3割超（33.1%）で前年並みだが、「いずれは転職したい」（37.6%）が減り、「ぜひ独立したい」「いずれは独立したい」の合計が約1割となる結果となった。記述でも「自分の店を出したい」「フリーランスも考える」といった独立を目指すものが目立った。

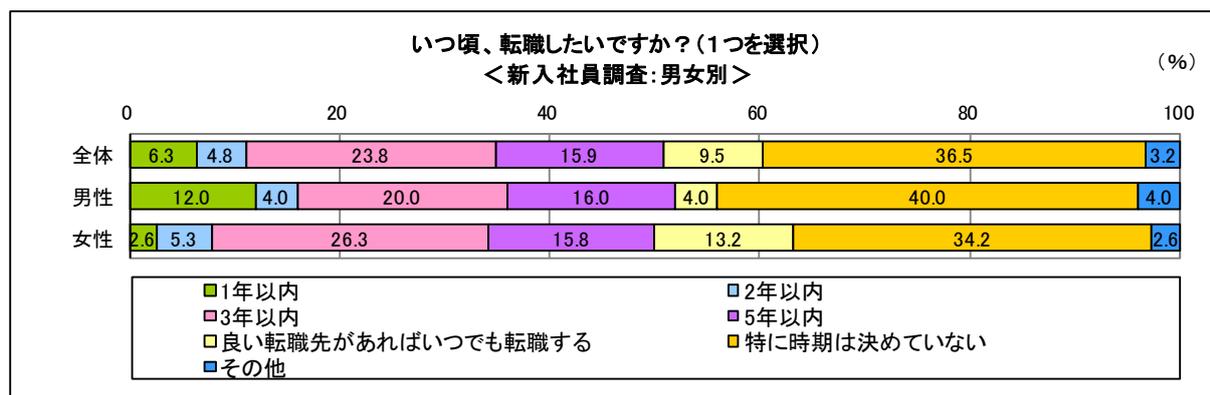


【男女別】今後の転職等について、男女別では今の会社で「定年まで働きたい」との回答に大きな差が出た。男性は過去3年間で最高の5割近くが今の会社で「定年まで働きたい」（2018年32.7%、2019年39.1%、2020年45.5%）と答えており、新型コロナウイルスの影響で雇用情勢や景気が悪化している状況を受けていると思われる。一方、女性は逆に過去3年間で最低の2割に減少する結果となった（2018年25.2%、2019年29.1%、2020年20.9%）。

「いずれは独立したい」は微増ながら男女ともに過去3年間で最高となった。



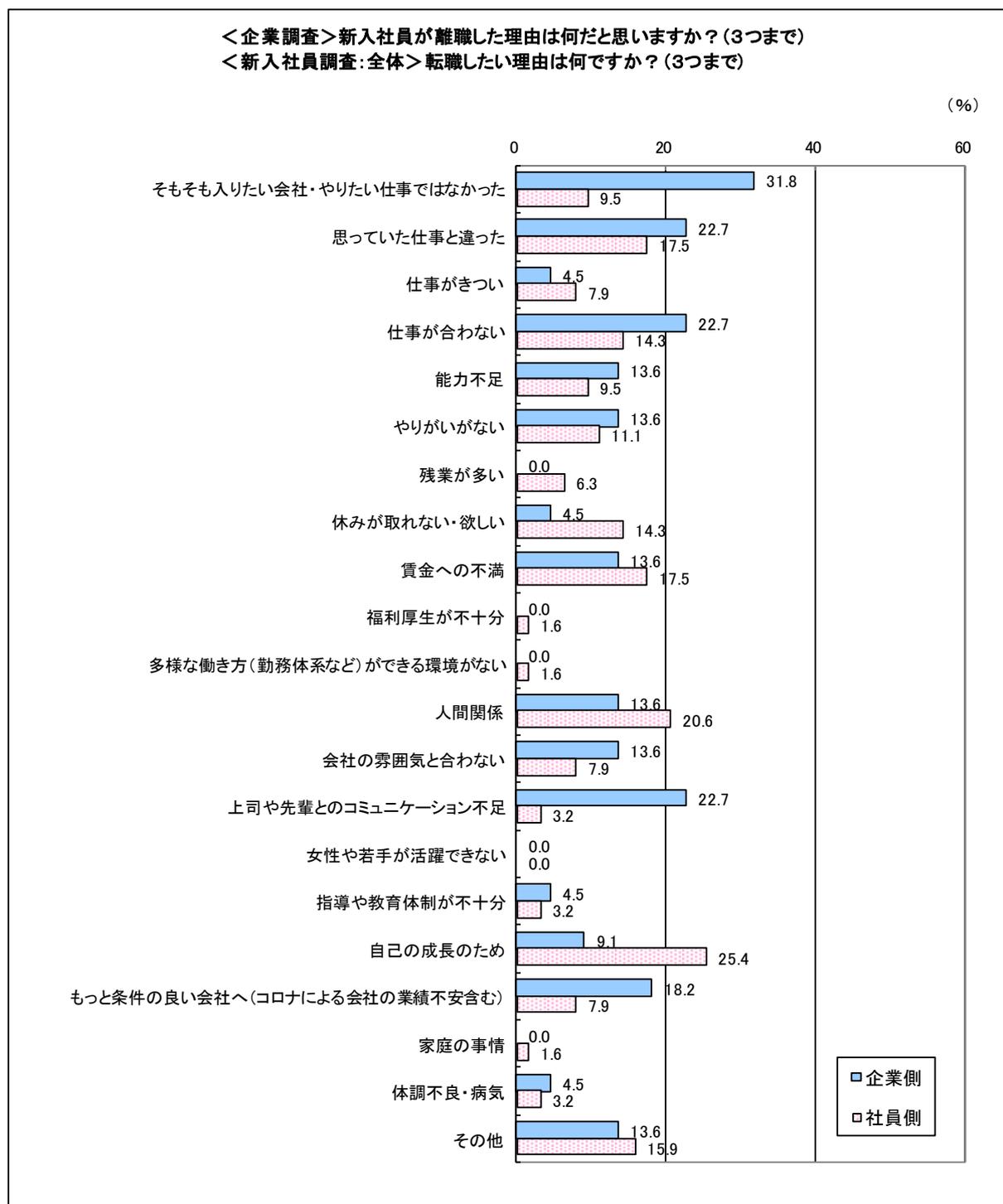
上記の質問で「ぜひ転職したい」「いずれは転職したい、してもよい」と答えた人にその時期を聞いたところ、「5年以内」までを選んだ人が半数を超え計50.8%、前年比3.7ポイント増となった。また、「良い転職先があればいつでも転職する」は9.5%となっている。



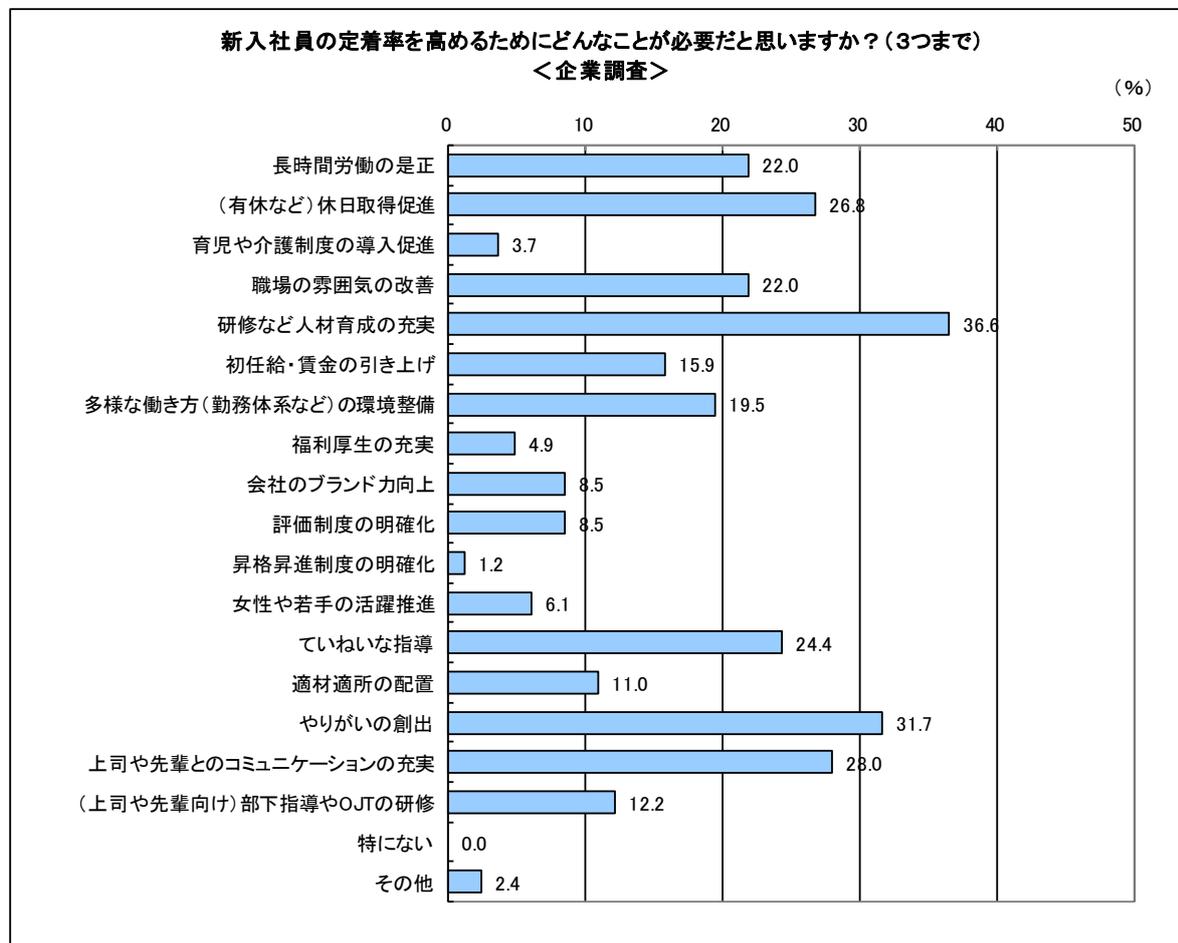
<企業調査：離職した理由 / 新入社員調査：転職したい理由>

企業調査では、新入社員が離職する理由の1位は「そもそも入りたい会社・やりたい仕事ではなかった」(31.8%)。同率2位が「思っていた仕事と違った」「仕事が合わない」「上司や先輩とのコミュニケーション不足」(22.7%)。

一方、新入社員調査では、新入社員が転職したい理由1位は「自己の成長のため」(25.4%)、2位「人間関係」(20.6%)、3位は同率で「思っていた仕事と違った」、「賃金への不満」(17.5%)。1位の「自己の成長のため」はこれまで同様、企業の認識との差が大きく、新入社員25.4%に対して企業9.1%。企業は新入社員自身の現状への不満を離職理由と考えているが、新入社員は自己の成長と将来の処遇や働き方を見据えて転職を考えていることがわかる。

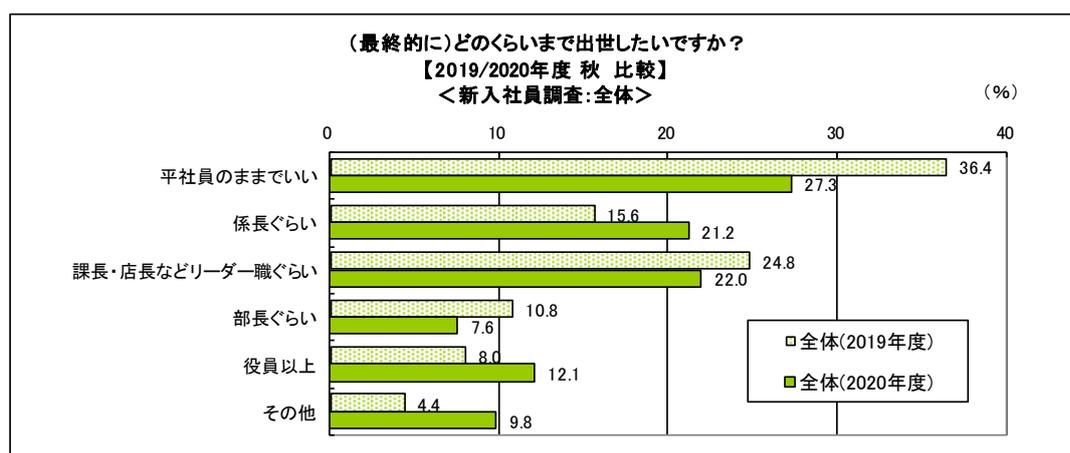


<企業の離職防止策> (企業調査) 1位は「研修など人材育成の充実」(36.6%)で前年比12.5ポイント増、2位は「やりがいの創出」(31.7%)で前年比7.6ポイント増となった。「自己の成長」を転職の理由に挙げる新入社員に対して、これまでの企業の離職防止策は「職場の雰囲気の改善」(前年1位44.4%)「上司や先輩とのコミュニケーションの充実」(前年2位42.6%)などやや乖離がみられたが、適切な対策が検討・実施されていることが窺える。「成長の場を継続的に提供できるかが企業側の課題」と記述する企業もあった。



4. 出世について (新入社員調査)

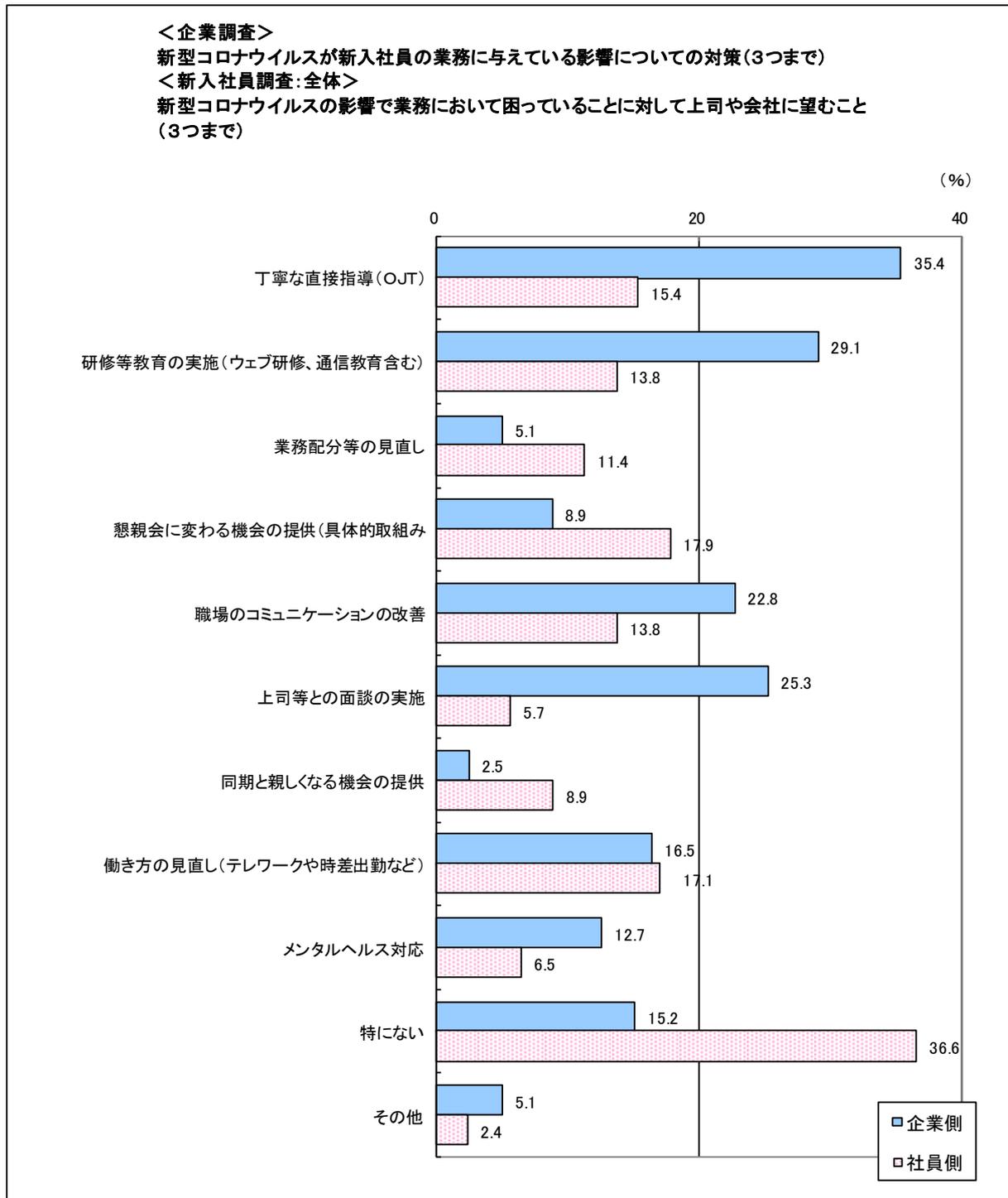
「どのくらいまで出世したいか」では、「平社員のままでいい」が過去3年間で最低の27.3%となり、初めて3割を切った(2018年35.0%、2019年36.4%)。増えたのは「係長」(21.2%)、「役員以上」(12.1%)、「その他」(9.8%)でどの項目も過去3年間で最高。「その他」には「社長」「独立」といった記述がみられた。「平社員のままでいい」が減り、「役員以上」「その他」が増えた傾向に男女差はなかった。



5. 新型コロナウイルス対策

<企業調査：新入社員への対策 / 新入社員調査：上司や会社に望むこと>

新型コロナウイルスが新入社員の業務に与えている影響についての企業側の対策の1位は「丁寧な直接指導（OJT）」（35.4%）、次いで「研修等教育の実施」（29.1%）、「上司等との面談の実施」（25.3%）の順。一方、新入社員が新型コロナウイルスの影響で業務において困っていることに対して上司や会社に望むことは「特にない」（36.6%）が最も多く、コロナ禍以前を知らないこともあり、大きく困っている様子はみられない。次いで「懇親会に変わる機会の提供」（17.9%）、「働き方の見直し（テレワークや時差出勤など）」（17.1%）で、働き方については「テレワークが許可されないのは今の時代おかしい」「在宅ワークができるように体制が整ってほしい」といった記述がみられた。



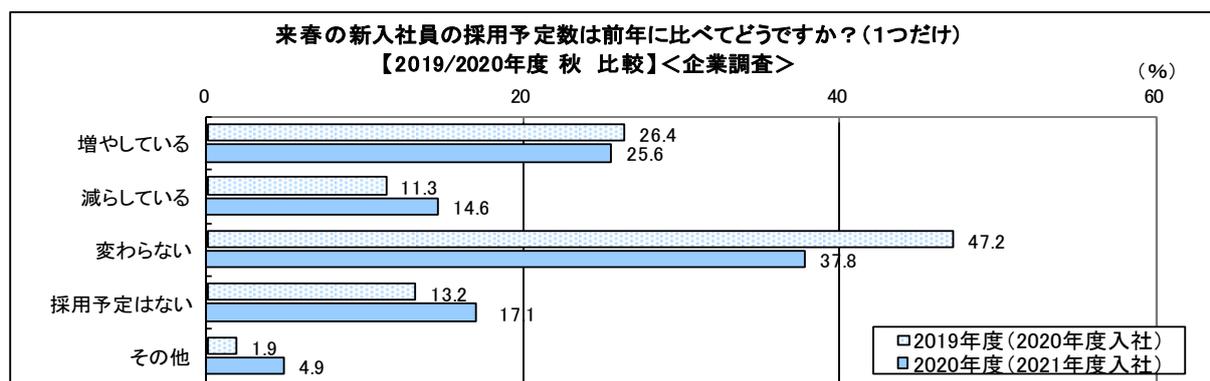
6. 企業の採用状況（企業調査）

新型コロナウイルスの影響か、来春の採用予定数を「減らしている」企業は前年比 3.3 ポイント増の 14.6%で、「採用予定はない」（17.1%）も前年比 3.9 ポイント増となった。採用状況は「例年より良い」（25.4%）で前年比 14.3 ポイント増となった。

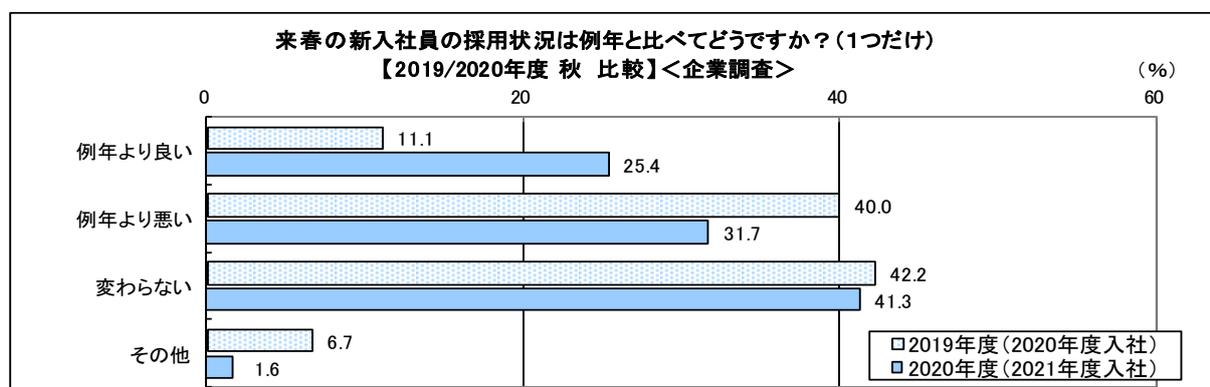
採用のために強化した取り組みでは、「学校との連携」（30.0%）、「合同説明会や就職フェアへの参加」（17.5%）、「インターンシップの受入れ」（22.5%）といった対面が必要な項目が前年に比べて減り、「特にない」（23.8%）が前年比 10.6 ポイント増と対策に困った様子が窺える。

一方、「ウェブ面談の導入」（11.3%）を行った企業もあり、「（内定者と）直接会うことがないまま、どれだけコミュニケーションを取りモチベーションを継続させるかが課題」と記した企業もあった。

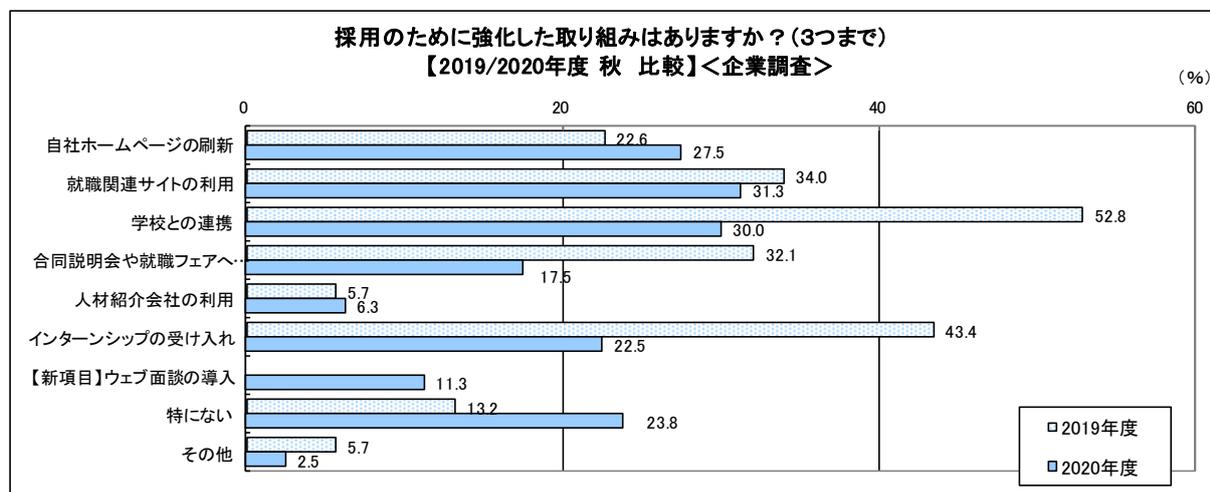
<来春の採用予定数>



<来春の採用状況>



<強化した取り組み>



以上